

はじめに

平成 30 年度から令和 3 年度に渡る 4 年間の大学院総合科学研究科・総合科学部の教育研究ならびに管理運営業務に関する自己点検・評価実施報告書が完成しましたので、ここに公表します。

広島大学総合科学部は、学際・総合・創造性を理念として昭和 49 年度に創設され、学際的な学部教育を約半世紀に渡って行ってきました。平成 29 年度まで総合科学部総合科学科という 1 学部 1 学科体制で行ってきた教育を、英語で授業を行う国際共創学科を平成 30 年度に設置することによって 2 学科体制としました。これまで自己点検・評価実施報告書は 3 年ごとに作成してきましたが、今回は国際共創学科が初めての卒業生を送り出した令和 3 年度までの 4 年間を対象として作成しました。

また、この 4 年間には広島大学の研究科改組があり、平成 31 年度(令和元年度)には統合生命科学研究科が設置され、令和 2 年度には人間社会科学研究科と先進理工系科学研究科が設置されました。平成 18 年度設置の総合科学研究科は、平成 31 年度(令和元年度)を最後に学生募集を停止しましたが、現在も多くの方がいます。

このような大学改革の流れの中で総合科学研究科ならびに総合科学部における教育・研究活動にも変化が見られ、それらの内容を網羅した報告書となっています。また、令和 2 年からの新型コロナウイルス感染症の世界的な流行の影響が、オンライン授業の増加、留学の制限、課外活動の制限、アルバイトの減少など、学生の学びや生活に大きな変化をもたらしましたが、その影響を強く受けた期間を含む報告書となっています。

本報告書が、総合科学研究科ならびに総合科学部の活動を記録した資料として残ると同時に、今後の総合科学部における教育・研究の在り方を考えるために役立つことを願っています。本報告書作成にあたってご尽力いただきました関係者の皆様、総合科学部評価委員会の皆様、総合科学系支援室の皆様に御礼申し上げます。

令和 5 年 1 月

広島大学総合科学部長

関矢 寛史